

## 貧困のサインをめぐる保育者の語り： サインの相互関係を示す概念図の提案

梅崎 高行・高 向山\*  
山 際 勇一郎\*\*・青 柳 肇\*\*\*

### Child Caregivers' Narratives about Signs of Poverty: Suggestion of a Diagram Showing Correlations Among Signs

UMEZAKI Takayuki, GAO Xiangshan, YAMAGIWA Yuichiro and AOYAGI Hajime

**Abstract:** Child poverty is a serious problem in Japan. From the perspective of education, economic compensation for individuals in the early stage of life is considered highly effective. Moreover, nursery schools involved with children in that period and their families are expected to function as welfare service providers. On the other hand, there are differences in the recognition of this problem among nursery schools and regions. Therefore, it would be desirable to share a common perspective so that signs of poverty in children and families would not be overlooked. Interviews were conducted in 15 nursery schools that had been positively dealing with problems related to poverty, and factors to be recognized as important for providing effective support were examined. Interviews identified 23 items as signs made by children and their parents, including ten items that had been indicated in previous studies. These items were organized in a conceptual diagram showing correlations between them. This diagram was considered useful for understanding the totality of the problem and for attending to each child, compared to the checklist that was first indented to develop. Based on the diagram, support that should be provided by nursery schools to compensate for disadvantages in the early stage of life can be discussed.

**Key Words:** signs of poverty, child caregivers' narratives, diagram showing correlations among signs of poverty

**要旨：**わが国では、子どもの貧困問題への対応が急務となっている。人生の早い段階における経済的補償がもっとも高い教育効果を上げるといった知見により、その時期の家庭と子どもに接する保育所が、福祉機能を発揮することへの期待が高まっている。ところがこの問題の認識には依然、各園・各地域間の差も見られる。子どもや家庭の発するサインを見逃すことがないように、必要な視点の共有が好ましいだろう。そこで本研究は、貧困問題に先駆的に取り組んできた15園を対象に、いかなる気づきが支援に有効かインタビューを行った。この結果、保護者と子どもが示す貧困のサインが、先行研究から抽出された10項目を含む全23項目としてリストアップされ、問題の相互関係を示す概念図として整理された。この図は、研究の当初目的であったチェックリストとしての整理に比べ、貧困問題の全容を把握し、各園で在園児の一人ひとりに目を向けるに当たって有効と考えられた。この図を基礎資料として、人生初期の不利に対し保育所ができる支援について、議論を展開することが期待された。

**キーワード：**貧困のサイン、保育者の語り、貧困のサインの関係を示す概念図

\*常葉大学准教授

\*\*首都大学東京准教授

\*\*\*早稲田大学名誉教授

## 問題と目的

**貧困の発見** 1990年代から一部で認識され始めたわが国の貧困問題は、2009年、政府の調査によって「6人に一人、約16%の子どもが相対的な貧困状態にある」と公表された。生活実態とかけ離れたこの数字は「貧困の発見」として、少なくないインパクトを与えて今日に至っている(阿部, 2012)。背景として阿部(2008)は、子どもにとっての必需品に対する判断基準を日英で比較した調査から、わが国における貧困問題への関心の薄さを指摘している。その後2015年になって貧困率は13.9%と若干の改善を見せたが、これは景気の向上に連れて子育て世帯の経済状態が持ち直したことに加え、メディアによる取扱いの増加から貧困問題に対する社会的認識が高まった結果と考えられる。Figure 1には、朝日、毎日、読売3紙のデータベースを使い、「貧困」と「保育」の2語を入力して記事を検索した結果を示した(梅崎・高・山際・青柳, 2017)。2000年初頭に各紙とも数件であった状態は10年ほど続き、2011年頃から右肩上がりを見せ始めた様子が見て取れる。

**相対的貧困と絶対的貧困** こうした貧困問題を実証的に検討していくに当たり、貧困とは何か、概念整理が欠かせない。このうち最もよく用いられる整理に、人が社会的な存在であることを鑑みて、その営みが阻害された状態を指す「相対的貧困」がある。相対的貧困は、通常なら社会的に付与される雇用、教育、住居、社会参加の機会から排除されている状態を指し(鎮目, 2011)、多くの先進国で採用される貧困の概念である(阿部, 2007)。等価可処分世帯所得の中央値の半分以下の収入(国民の所得を高い順に並べ、中央の

人の半額に満たない収入)で暮らす家庭が、この状態に相当すると考えられる(2015年は122万円が相当した)。もっとも、この基準はあくまでア・プリアリなものであるが、このように指標を決定することによって、貧困がもたらす発達上のリスクを同定していくことができる(菅原, 2014)。相対的貧困は可視化されにくく、安全な水や食料を欠く「絶対的貧困」に比べて直感的な理解も難しいため、貧困対策にとって有意な視点と言えよう。

**相対的貧困のリスク** 相対的貧困がもたらすリスクは2つに大別できる(阿部, 2008)。一つは社会的排除による人間関係の希薄さや固定化である。もう一つは、養育者を介した身体的・心理的な悪影響であり、虐待はこのプロセスを代表する最悪の養育に当たる。相対的貧困が子どもの発達にもたらす悪影響については、脳科学的検討も含めてすでに多数の報告があり(友田, 2017)、早くはBrooks-Gunn & Duncan (1997)が、相対的貧困下における低出生体重のリスクなど社会的困難との関連を示している。これによれば低出生体重のリスクは通常の1.7倍、一時入院は1.7倍、退学は2倍、LDは1.4倍、感情的な問題や問題行動は1.3倍、10代での未婚出産は3.1倍、児童虐待・育児放棄は6.8倍、暴力的な犯罪経験は2.2倍であり、発達に対する貧困の影響が、想像を越えて強く一貫したものであることが示されている。またMagnuson & Duncan (2002)では、貧困下の養育研究における中心的問いを、(1)いかに家庭の経済的問題は親と養育に影響するか、(2)低賃金労働はいかに母親と養育に影響するか、(3)貧困の親は子どもの発達に対する目標や視点が一般家庭とは異なるか、(4)貧困は父親の養育にいかに影響するか、(5)低収入下の養育における重要な資源とは何かの5点に整理し、縦断研究によるこれらの解明が待たれるとしている。わが国でもこれに応える報告が見られ始め(阿部, 2012; 樋口・宮内・McKenzie, 2012; 耳塚, 2013; 敷島・直井・山下・赤林, 2012)、このうち耳塚(2013)では、学力テストと同時に実施された児童・生徒約4万人の調査を分析して、成績の悪さと家庭収入の低さとの関連を見出した。貧困家庭では「学校外教育(塾や教室など)を利用したくても利用できない」状況にあり、個人の要因とは無関係の外的要因が、子どものライフチャンスを蝕んでいると考えられる。

**FIMとFSM** 家庭の経済状況が子どもの発達を阻害するプロセスは、2つのモデルで把握できるとされる(たとえばDuncan & Brooks-Gunn, 1997; Huston &

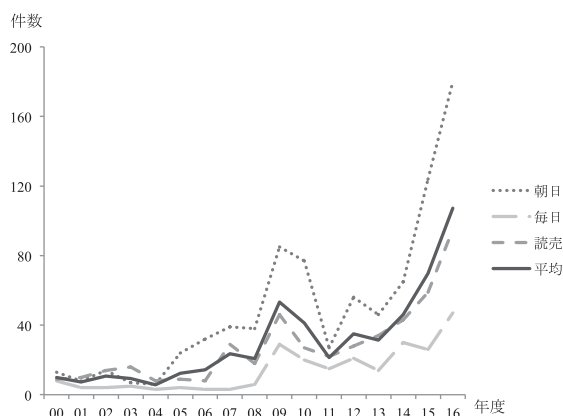


Figure 1 各新聞データベースにおける年度ごとの「貧困 AND 保育」の検索語数の推移

Bentley, 2010 など)。一つは Family Investment Model (FIM) であり、家庭による教育や文化的体験に対する投資の低さが子どもの成長の機会を奪うモデルを指す。もう一つは Family Stress Model (FSM) であり、経済的困難にある養育者のストレスを介して子どもの健康や発達が脅かされるモデルを指す。いずれも経済状況の直接的な影響ではなく介入要因を仮定する点がポイントであり、子どもの貧困問題において子どもと家庭を同時に見ていくことの必要性を示唆するモデルとなっている。この FIM と FSM のモデルを採用した研究はこれまで主にアメリカが主導してきたが、近年ヨーロッパでも、同モデルを用いた検討が見られる (Rijlaarsdam et al, 2013)。またわが国では菅原 (2012) が、このモデルを用いた検討を行っており、阿部 (2006) に準拠して相対的貧困基準の閾値を 500 万円と設定した上で、その高群と低群を比較している。その結果、心理的健康など下位 4/6 項目に有意差が見られ、パス解析の結果、FSM/FIM 両モデルとも、子どもの QOL を介して子どもの問題傾向を予測することが示された。

このように子どもの発達に深刻な影響を与える経済的不利であるが、支援はより低年齢で効果のあることが、ノーベル経済学賞を受賞したヘックマンらの研究によって支持されている (Heckman & Masterov, 2007)。このヘックマン以降、子どもの情緒的安定にとっても早期支援が有効とされる知見が提出されており (菅原, 2014)、社会情動的スキル (OECD, 2015) の発達が課題とされる現代の子どもにとって、経済的貧困に対する早期支援は、社会の重要課題と位置づけられる。たとえば Bierman, Welsh, Heinrichs, Nix, & Mathis. (2015) による家庭訪問 (アウト・リーチ) によって養育機能の回復を支援する実践や、Meins, Centifanti, Fernyhough, & Fishburn. (2013) による母親の Mind-Mindedness (子どもを、大人同様の心をもつ存在と見なし働きかける心性) を高める実践などは、こうした認識に基づく試みの一例に当たる。

**対策のプラットフォームとしての保育所** 家庭個々に対する Meins et al. (2013) らのアプローチに加え、近年では、貧困対策のプラットフォームとしての機能を、子どもが通う学校園に期待する議論も見られる (浅井, 2017)。とりわけ保育所は、発達の極早期に、もとより優れた福祉機能をもつ施設として、子どもと家庭の身近に存在している。したがって、より効果的な対応が成し得る場としての期待を集めるが、すでに貧困下にある子どもの防波堤として、機能を発揮する

保育所の実践も報告されつつある (平松, 2016; 塚本, 2016)。これらの実践では、一家庭の困難を個別の問題と見るだけでなく、集団保育を実践するクラス全体の課題と捉える点に特徴がある (Gassman-Pines, Gibson-Davis, & Ananat, 2015)。

こうした先駆的な取り組みの一方で、保育所による貧困支援全体は、「子どもの貧困」の発見以降、途に着いたばかりである。各園や各地域による認識差も依然大きく (Votruba-Drzal, Miller, & Coley, 2016)、保育所にとって今後の行動指針となるような提案が求められている。こうした現状において、先駆的な保育所で蓄積されてきた貧困問題への対処経験、なかでもいかに貧困に気づくかといった視点は、他園の保育実践にとっても参考になる部分があるに違いない。そこで本研究では、先駆的な取り組み園の語りから、貧困問題の早期発見や早期対応に資する資料の提出を目指す。併せて先駆園が、気づきの手がかりとして活用する貧困のサインをめぐる談話から、貧困支援に対する保育所の可能性と限界に関する検討を行う。

## 方 法

### 調査時期、対象地域、対象者

資料の提出を目指し、保育所長や当該問題担当保育者を対象とした半構造化面接を実施した。期間は 2017 年 3 月から 4 月と、2017 年 9 月であり、関西地域 12 園と九州地域 3 園の計 15 園 (公立 3 園、私立 12 園) から 19 名の保育者の協力を得た。調査では、対象者に依頼してリクルートを広げる雪だるま式サンプリングを採用し、貧困問題に関わる保育経験が豊富な保育者の協力を集めた。九州地域についても研究協力者の協力を得て、適当な保育者を紹介してもらうことによって、収集データの地域性の偏りにも配慮した。この結果、夜間保育所 2 (関西 1, 九州 1) 園と、宗教法人による運営園 3 (キリスト教 2, 仏教 1) 園も対象に含められ、立地条件や保育観の多様性が一定程度まで保障されるデータとなった。また私立園の園長 1 名は、40 年に及ぶ保育歴の 30 年強を公立園で過ごし、公立保育所長を経て私立園の園長に就任していた。そのため公立園の状況についても聞きとることができた。対象者の平均保育歴は 26.29 (SD 11.89) 年、インタビューの平均時間は 56.07 (SD 19.64) 分であった (Table 1)。

### 調査内容と手続き

2016 年、保育から貧困問題を考えるわが国で初め

Table 1 協力園・協力保育者一覧

園呼称	地域	公立・私立	特徴	先生呼称	役職	保育歴 <sup>(注)</sup>
a	関西	私立		A	地域貢献支援員	23
				B	副園長	—
b	関西	私立	キリスト教	C	園長	25
c	関西	私立		D	園長 (元公立園長)	40
d	関西	私立		E	園長	30
e	関西	公立		F	園長	30
f	関西	私立		G	園長	8
				H	副園長	8
g	関西	私立		I	園長	30
h	関西	私立		J	園長	—
i	関西	私立	キリスト教	K	園長	23
j	関西	公立		L	元所長	38
k	関西	公立		M	元所長	40
l	九州	私立		N	園長	8
m	関西	私立	夜間	O	元園長	42
n	九州	私立	仏教	P	園長	—
o	九州	私立	夜間	Q	理事長	—
				R	園長	23
				S	常務理事	—

(注) 保育歴を確認できなかった対象者はハイフンで示した。平均保育歴はこの対象者を除いて算出した

ての図書が刊行された。秋田・小西・菅原 (2016) によるこの編著の中から、現在も保育所長として貧困問題に対応する平松 (2016) と塚本 (2016) の論考を参照して、保育者が家庭の貧困に気づく保護者のサインならびに子どものサインをリストアップした。保護者のサインは「衣類などの洗濯がなされていない」、「忘れ物が多い」、「持ち物に記名がない」、「登園時間がバラバラ」、「欠席しがち」の 5 項目であった。子どものサインは「朝から覇気がない・元気がない」、「不安が強い・落ち着きがない」、「大きい音や人の出入りに敏感」、「あざがある」、「異常な食欲を示す、お腹を隠して眠る、午睡時に頬を伝わる涙の跡が見られる」の 5 項目であった。保育者には自身の保育経験に照らし、貧困のサインとしての各項目の重篤度を、1 点 (低) から 5 点 (高) までで評価してもらい、その理由について尋ねた。また、用意した各 5 項目以外にも、リストに加えるべきサインがないか尋ねた。

インタビューでは、冒頭に Figure 2 を示して調査の趣旨を説明し、情報の守秘を約束した上で、インタビュー内容を録音する許可を求めた。その上で、1. 貧困家庭への対応の具体例や、すでに述べた 2. 貧困のサインに対する重篤度評価の他に、3. 貧困家庭と一般家庭の相違、また 4. 保育所が行う貧困支援の可能性と限界について、半構造化面接によって尋ねた。以下に示す保育者の語りは、インタビューを逐語化し

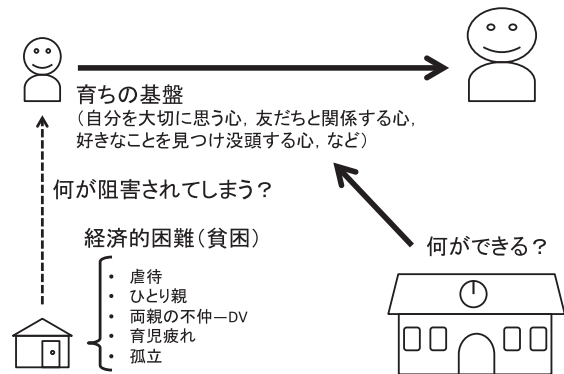


Figure 2 趣旨説明に用いられた図

たものである。提示に当たり、質問に対する回答の明示性と、全対象園からのバランスのよい抽出を心がけた。その上で、本稿の一部を報告した梅崎ら (2017) に対する第三者の批判的評価を活かし、抽出の恣意性ないし偏りに配慮した。これらの語りのうち、個人情報に関わる内容はブランクのままカッコで示した。また適宜言葉を補って、抜粋して示した語りの前後文脈を説明した。

## 結 果

### 1. 貧困家庭への対応の具体例

各園・各保育者から次のような経験談が聞かれ、保育所における「子どもの貧困」問題を検討するに当た

ってふさわしい対象群であることが確認された。

(1) **1園 N 先生**の経験 ( ) 年前になりますけどね、あの子がいま ( ) 歳になったから。しかも6月の28日か29日ですけどね。相談があったんです、泣きそうな声で電話があったんですね。「新しい制度になって園に入りたい」と。「今からでも間に合いますか」と。

**背景** N 先生が数年前のできごとの月日まで記憶しているのは、6月30日が1園が所在する自治体において、入園申し込みの締切日であったからである。N 先生はすぐに自治体の担当者に電話をかけて事情を説明し、1日で書類を作成して申請を通した。

(2) **n 園 P 先生**の経験 最後僕らもちょっと切り替えてたんですよ。お姉ちゃんの方にご飯の炊き方教えたりして、「とにかくもうあなたが自立しないとこの、ここにはもう望みがないから、とにかくあなたが自立することを教えるけん」って言ってから。

**背景** P 先生は生活保護の受給申請を代行するなど、夫と離婚した母親を支えた。しかし母親が自立に至らなかったため、2人いた子どもの上のきょうだい(姉)を支援対象とすることにした。3歳の姉は自分でおにぎりを握れるまでになったが、急に幼稚園へ転園となり、その後はわからない。

ここで示された P 先生の談話と、以下に示す c 園 D 先生の談話とは、重なる点があるように思われる。D 先生は、すでに崩壊した状況にあるにもかかわらず、家庭を中心とした幸せを周囲の人間が思い描くばかり、子どもの緊急避難が叶わない状況について次のように述べている。

**家庭があることが邪魔になることがある** 親子関係を修復したいっていうのは、もちろん一番大事な、私た

ちの究極の、目的にはなるんですね。離れて…離してしまいたくないっていうのは、あるんですけど、でも今そういう状況の中に子どもを放っておいていいのかなあと。(略) 家庭があるってことが邪魔になることがありますよね。(略) 家庭が壊れてたら、もう一時保護もできるし、施設に入ることもできるし、それが幸せとは言いませんけど、でも今の生活よりはいいかなと (c 園 D 先生)

(3) **m 園 O 先生**の経験 (園の夏祭りで)「ママ、スーパーボールすくいしたいねん、させて」って言ったときに、「100円のお金な、それ使ったらお母さん昼ないねん」って言い合ったわ。私何気なく聞いてるんですよ、スーッと通ったとき。これはアカンって思いましたね。

**背景** O 先生はその後、スーパーボールすくいを望んだ当時5歳の男児に、しばしば給食の残りを持たせて降園させた。この母親は、離婚による生活苦を乗り越えるため、毎日22時まで仕事をしていた。O 先生は小学3年生を22時まで預かるボランティア事業を立ち上げ、卒園後も当該園児と母親の支援を行った。

## 2. 貧困のサインに対する重篤度評価

こうした貧困をめぐる保育経験豊かな園に、貧困のサインとしての各項目の重篤度評価を、保護者と子どものそれぞれについて尋ねた。

**2-1. 保護者のサイン** 保護者では「欠席しがち」の重篤度が最も深刻と評価され、15園中9園が5段階評価の5(重篤度が最も高い)と評価した(Table 2)。2位は「衣類などの洗濯がなされていない」であり、以下は順に「登園時間がバラバラ」、「忘れ物が多

Table 2 貧困のサイン (保護者)

項目	M (SD)	保育者の回答例 (上:重篤度5, 下:重篤度1)
欠席しがち	4.07 (1.49)	行くのが邪魔くさくなるというか (A 先生) お母さんも来てる方が楽し (D 先生)
洗濯されていない	3.71 (1.27)	衣類がいちばんでかいかな (G 先生) 30年くらい前までは(略)結構あったんですが (O 先生)
登園時間バラバラ	3.57 (1.60)	登園時間とかは気になりますよね (E 先生) すごく遅く来る方が気になりますね (F 先生)
忘れ物多い	3.14 (1.35)	子どもの無関心に関係してくるので (C 先生) 親の対応だったですよ。(性格?) そうそうそう (N 先生)
持ち物記名ない	2.64 (1.15)	(5 評価なし) 持ち物, こない (大したことない) やろ (O 先生)

い」であった。最も重篤度が低いと評価された「持ち物に記名がない」を 5 と評価した保育者はなく、3 (中程度の重篤度) と評価した理由として「もうほんとに忙しくて、消えていってしまって、書けないとか。マジック置いときます。書いて～って」(k 園 M 先生) などの語りが聞かれた。

以下、平均値が高い順に、各項目における高評価と低評価の語りを一件程度ずつ見ていく。

**保護者のサイン第 1 位 欠席しがち (4.07 ポイント)**

**評価 5** 欠席しがちいうのもすごい気になりますよね。欠席しがちになってきたり。(略) 登園時間がバラバラっていう前に、来る前に欠席しがちになってしまうと思います。もう、行くのが邪魔くさくなるというか、保護者の方が。遅くなくても来てくださるの方が、やっぱり、子どもには、あれですかね (a 園 A 先生)

**評価 1** 私のところの場合だと欠席しがちってのはあんまりないですね。だってお母さんも来てる方が楽だし、子どもが来てる方が (c 園 D 先生)

**保護者のサイン第 2 位 衣類などの洗濯がなされていない (3.71 ポイント)**

**評価 5** 衣類がいちばんでかいかな。忘れもんとかも。(略) 衣類とか洗濯がされてないとか、なると、ま臭いとか、てきめん。

これ (衣類の洗濯) ほんま貧困ですよ (f 園 G 先生, H 先生)

**評価 1** あのね、衣類なんかよりね、私この仕事して 40 年くらいになるんですよ。その中で、やっぱり 30 年くらい前までは、衣類の洗濯なされてないって結構あったんですが (m 園 O 先生)

**保護者のサイン第 3 位 登園時間がバラバラ (3.57 ポイント)**

**評価 5** 登園時間とかは気になりますよね。「このごろ来るの遅いよね」とか。それとかいつも通りの時間に来なかったら担任はいつも、「まだ来てないんです」って言いに来ます。「家で何かあったん違うか」って (d 園 E 先生)

**評価 1** バラバラっていうよりは、すごく遅く来る方が気になりますね。11 時とか。もうご飯の前ぐらい。(略) これって仕事がバラバラのこともあるんですよ。今日は遅いとか、普通にそういうお仕事の方もいらっっしゃいますし。(これ単独で貧困のサインには) ならないって感じですね (e 園 F 先生)

**保護者のサイン第 4 位 忘れ物が多い (3.14 ポイント)**

**評価 5** これはもう子どもへの無関心に関係してくるので (b 園 C 先生)

**評価 1** 忘れ物もあったんですけどやっぱり親の、親の対応だったですね。(性格的なもの?) そうそうそう (I 園 N 先生)

**保護者のサイン第 5 位 持ち物に記名がない (2.64 ポイント)**

**評価 4 (評価 5 なし)** 識字が…力が少し、あの、気づかなかったりするんですよ、割とほら、会話もちゃんとなされるし、(略) 実は、あるとき気づいたことあってですね、(連絡帳に) お母さんのコメントが久しぶりあったとき、ひっくり返ってる文字があったんですよ。で、あれ? って。ひょっとしたらお母さん、読めない漢字があったんじゃない? って言って (n 園 P 先生)

**評価 1** 持ち物に名前がないってのも、全体的 (笑)。(略) 貧困が、どこまでの貧困か。そらあこんな言うたら涙出てくるけど、子ども連れてこない人も。迎えに行きますよ、私は。迎えに行くと言うことは食事食べてない。特殊な貧困や。親は (降園時の) 迎えには来てる。朝が起きれないってことは夜の仕事。( ) っていうのは貧困家庭が多い。(略) これが、持ち物こない (大したことない) やろ (m 園 O 先生)

**2-2. 子どものサイン** 次に、子どものサインに目を向ける。子どもでは「あざがある」が最も重篤度が高いと評価され、15 園中 11 園が、5 段階評価の 5 (最も重篤) と評価した (Table 3)。2 位は「不安が強い、落ち着きがない」であり、以下は順に「朝から覇気がない・元気がない」、「異常な食欲を示す、お腹を隠して眠る、午睡時に頬を伝わる涙の跡が見られる」であった。最も重篤度が低いと評価された「大きい音や人の出入りに敏感」において、他児と一緒に食事が摂れなかった子どものエピソードから、「(貧困というよりむしろ) 発達障がいの気があった」(i 園 K 先生) との語りが得られた。以下、高評価の語りと低評価の語りをそれぞれ見ていく。

**子どものサイン第 1 位 あざがある (4.43 ポイント)**

**評価 5** あざがあるのはとっても大変ですよ。あと大人が何気なく手を上げたときにこうなる (頭を守るような動作をする) のは、不安が強いってことでこれもちょっと、危ないですよ (e 園 F 先生)

**評価 1** (そういう虐待は、必ずしも経済的な問題) ではない! ない! ただ、ただやっぱり私から見つけにくい、最近ではこの親、正常かなって見方も必要になっ

Table 3 貧困のサイン（子ども）

項目	M (SD)	保育者の回答例（上：重篤度5, 下：重篤度1）
あざがある	4.43 (1.22)	あざがあるのはとっても大変ですよ（F先生） （虐待は経済的な問題…）ではない！ない！（O先生）
不安が強い, 落ち着きがない	4.29 (0.99)	やっぱりそれはサインやと思いますわ（L先生） （1評価なし）
朝から覇気がない・元気がない	4.21 (1.12)	ご飯も食べてない, お母さんも朝起きるのが遅い（D先生） （1評価なし）
異常な食欲, 特徴的な眠り方	3.86 (1.35)	月曜日のね, お味噌汁の売れがすごくいいんです（H先生） それは貧困とは関係なしやわ（O先生）
大きい音や人の出入りに敏感	3.07 (1.44)	出入りだったり, (略) 注視する(略) ことが多いです（A先生） これはあんまり気がつかないですけど（E先生）

て思いましたもん。（親の発達障がい？）そうそうそう、貧困やからそうなるんじゃない（m園O先生）  
子どものサイン第2位 不安が強い, 落ち着きがない（4.29ポイント）

評価5 これはね, あの, たとえば発達障がいのお子さんとかがいてると, 一概にそれは言えないんですよ。だから, まあ, 常日頃見てたら, この子は, ADHDやなあとか, ちょっとこれは専門機関にちょっと行ってもらおうとかか, そういうことを除いたら, あのそうじゃないのに落ち着きがなかったりしたら, やっぱりそれはサインやと思いますわ（j園L先生）

評価3（評価1なし） 3くらい…割とたくましいですよ。で落ち着きがないっていうのはないです, なんにでも反応するっちゃうかですね。経験…子どもとしての経験が極端に少ないんですよ。大人みたいな生活にはすごく, 経験があるんですけど。なんかこう, 逆に自然の中に連れてくとえらいこう, 怖がったりとか。家とか街とか, コンビニみたいところは堂々としたもんなんですけど（n園P先生）

子どものサイン第3位 朝から覇気がない・元気がない（4.21ポイント）

評価5 その方は母子家庭でしたけど, 母子家庭って言ってもお母さんがすごく不安定で, そのご主人だった人との関係が, もう忘れられないっていうか, それなのにこの子がいるみたいな。(略)でご飯も食べさせてない, ま, 食べさせんこうと思うわけではないんだけど, やっぱりご飯も食べてない, お母さんも朝起きるのが遅い, ね。だからちょっと, パンを一つ買って置いて, 「じゃちょっとこれ食べてから保育室に行く？」って言って, そこで, パン一つ食べていった

りとかね（c園D先生）

評価3（評価1なし） 朝から覇気がない・元気がないって子は, 普通にいます。もう来てからだいたい1時間くらい経たないとスイッチが入らない子。えっと, 夜の就寝時間が11時とかなんですね。11時に寝て, 朝の7時, それよりも早く起こされて連れて来られると, 子どもはまだ寝足りなくて, だから, 新入園児さんが来たときにすごい褒めて, 「早く寝るような習慣がいい」ってものすごく言うんですけどね, (略)もう入ってきた時点で, 10時11時って人は難しいですね（i園K先生）

子どものサイン第4位 異常な食欲を示す, お腹を隠して眠る, 午睡時に頬を伝わる涙の跡が見られる（3.86ポイント）

評価5 異常な食欲を示すはあります, 月曜日(笑)。月曜日ね。月曜日のね, お味噌汁の売れがすごくいいんです（f園H先生）

評価1 ご存知?いま朝食がほとんどどうなってるか訳分かりませんよ。それは貧困とは関係なしやわ。ジュースみたいなん, 朝一回だけとかな。それこそ子どもの貧困ですよ。経済的とか関係なしに。(略)貧困にもいろいろある。1歳なんのに7キロ。7キロって5ヶ月くらいやからね。その子は昼, 夜, ここ(保育園)で食べるから, 救われますよね。全然ちゃいますよ（m園O先生）

子どものサイン第5位 大きい音や人の出入りに敏感（3.07ポイント）

評価5 問題児一人ひとり別のケースに入ると思うんですけど, やっぱり保護者の仲だったり, こういことだったり, 虐待だったりってあるお子さんは, やっぱり大きな音だったり人の出入りだったり, おとなが

喋ってる会話をね、注視する…あの、っていうことが、多いです (a 園 A 先生)

評価 1 大きい音や人の出入り、これはあんまり気がつかないですけど (d 園 E 先生)

**2-3. 加えるべき他のサイン** 重篤度の評価に続いて、用意した 5 項目以外に加えるべきサインを、保護者と子どものそれぞれについて尋ねた。その結果、保護者では「話したくなさそうな雰囲気」、「食事の質と量」、「発達障がい」、「恋人が現れる」の 4 項目が加えられた。また子どもでは、「タバコの臭い」、「髪の毛の未手入れ (未洗髪)」、「未洗浄の食器」、「乱暴な言葉遣い」、「先生から離れない」、「降園を嫌がる」、「体験が薄い」、「自己表現ができない」、「泣き方が特徴的」の 9 項目が加えられた (Table 4)。

### 2-3-1. 保護者に加えるべき他のサイン

(1) 話したくなさそうな雰囲気 子どもよりもやっぱり、お母さんですね。お母さんが、なんか暗いとか。あの先生に喋らない。こう、喋りたくないオーラ、を出されてる方。(略) なんかそんな、方のほうが気になります。子どもって割と、子どもの中に入ると、元気そうに見えるし、ご飯もおいしそうに食べるし、っていうところがあるので、どちらかと言えば保護者ですね (k 園 M 先生)

(2) 食事の質と量 ジュースみたいなん、朝一回だけとかな (再掲) (m 園 O 先生)

(3) 発達障がい 1 ただ、ただやっぱり私から見つけにくい、最近ではこの親、正常かなって見方も必要かなって思いましたもん。(発達障がい?) そうそうそう、貧困やからそうなるんじゃない (再掲) (m 園 O 先生)

Table 4 加えるべき他のサイン

保護者	話したくなさそうな雰囲気 食事の量と質 発達障がい 恋人が現れる
子ども	タバコの臭い 髪の毛の未手入れ (未洗髪) 未洗浄の食器 乱暴な言葉遣い 先生から離れない 降園を嫌がる 体験が薄い 自己表現ができない 泣き方が特徴的
その他	変化を見る 子どもに聞く ⇔ 話さない場合もある

発達障がい 2 それはね貧困というより、お母さんの、障がいでした (I 園 N 先生)

(4) 恋人が現れる あのね、母子の方が多んですけど、彼氏がね、すぐ現れるんですよ。そのときは、ちょっと要注意で、様子は見ます。子どもが言いますからね、「誰々くんが」って (笑) (g 園 I 先生)

### 2-3-2. 子どもに加えるべき他のサイン

(1) タバコの臭い 1 お風呂に入っている様子がなくて、着ているものも、荷物も、すべてすごくタバコの臭い、だったんです (i 園 K 先生)

タバコの臭い 2 あと、全部衣類がめっちゃタバコ臭いとか。ロッカー開けるとね、「ウッ」って来るときもあるし、髪の毛なんかにはね結構、染みつきますので (k 園 M 先生)

(2) 髪の毛の未手入れ (未洗髪) 衣服っていうより、あの頭です。洗髪。(略) 女の子の場合は、髪の毛、が手入れされてない。(略) 髪まではね、子ども自身でまだできない。服は着替えられるけど、大きい子になったら。でも髪までは、自分でといて、結ぶってまでは、保育所の子では無理なんですよ。いくら 4 歳 5 歳になっても。だからあざとか、いちばんわかるのは頭髪ですね (j 園 L 先生)

(3) 未洗浄の食器 1 衣類の洗濯よりも気になったのは、食器の洗浄だったので、スプーンもフォークもおはしも園の提供に代わりました (i 園 K 先生)

未洗浄の食器 2 今日使った弁当箱を、そのまま弁当箱の包みが同じ包みでね、出したりとかね (I 園 N 先生)

(4) 乱暴な言葉遣い 1 言葉がちょっと乱暴になるって言うか。何て言うんですかね、手前のサインかなって思うんですよ。(略) 誰にも甘えれない、好きな人、大好きなお母さんいるけど自分を苦しめることしかしない。大好きで、逃げ場がないから攻撃性が強くなる。だから言葉も、荒いですよ (n 園 P 先生)

乱暴な言葉遣い 2 やっぱり言葉遣いだったりとか、あと、そうですねその、動きですね、落ち着かんだったり、乱暴だったり、が結構…やっぱりお友だちに対してだとか、対、人に対して手が上がったりだとか、そういう、足とか手とか出てくる子に関しては、ちょっと、注意深く見ながら、あんまりちょっと続くようだったらちょっと、保護者の方に、ちょっと声かけはしますね (o 園 R 先生)

(5) 先生から離れない 子どもがなんか家庭であったときに、元気な子が、来ても、他の子どもとあんま遊



べない、こう隅っこの方で。でその、帰るときに（不明）先生に、抱き着いてくるったい。なんか先生も感じて、「なんかあったんですかねー」って、「今日はなんか離れない」。そういうのがやっぱシグナルかなーっちゃ話したことはある（o 園 Q 先生）

(6) 降園を嫌がる それ以外に、帰るとき嫌がる。降所時、すごく嫌がるんですよ。保育士の後ろに隠れたり、保育室に隠れて出て来なかったりとか。家に帰ることが怖い。これはすごく大きいサインです（j 園 L 先生）

(7) 体験が薄い 子どもの体験の中に、お母さんで行った外の世界（銀行、郵便局、スーパーなど）が、ないんですね（i 園 K 先生）

(8) 自己表現ができない こういう（不安が強い、落ち着きがない）のんより、自己表現ができない。（略）まずは、その、子どもの中で生活リズムが崩れることで、そういうその、自己主張ができないし、やっぱ不安定になるので、あの、友だちとのかかわりも、なかなかしっかりできない。だってみんな遊びきって、ご飯食べて、遊びの中にもう集団、集団ができますやん。できるところに、さあ今から入ろっかって言たって、入りきれないし、友だちも入れきれない（m 園 O 先生）

(9) 泣き方が特徴的 そういう子は泣き方が違う。体が硬い。泣いたらキーって泣く。耳がつく、耳につく（m 園 O 先生）

**2-4. 変化** 先行して用意された各5項目と、加えるべき項目として語られた計13項目のいずれのサインに対しても、変化に目を向けるという意見が語られた。

変化 (1) いつもと違うとか、今日は暗いとか。あの全然喋らないとか。朝たぶん叩かれたんだとかね。見たらあざがあったとか。やっぱ普段と違うって言うのは。（略）視診って言うじゃないですか。はほんとに大事ですね（g 園 I 先生）

変化 (2) 結構「これ昨日来てた T シャツまた着てるね」って言うのもありましたけどね。あの全体的に、日ごろの日常見てて、その重篤なね、困難家庭とは判断してなかったら、ま「お母ちゃん忙しいから洗濯してへんな」って言うくらいで捉えていますし（j 園 L 先生）

変化 (3) 衣類の洗濯がなされてないってのは、ときどきあるんですけど、だいたい決まってくるので。それも、突然そうなる人はあまりいないですよ。最

初っから。なので、その家庭はそういう風に対応するように（i 園 K 先生）

変化 (4) 保護者が、今まではこちらの挨拶なんかに 関しても、こう気軽についていうか、普通にできてたようなところが、ちょっと最近こちらの反応に、あんまり、いい風に帰ってこないよねとか、こちらが話しかけても、それに対して、すぐに話を閉じて帰ろうとするとか、やっぱり変化ですね、保護者の方の（b 園 C 先生）

変化 (5) で、保護者の洗濯がなされてない、忘れ物が多いっていうのもね、よくあるんですけど、重篤度って言ったらこれはね、もう日常茶飯事になっちゃう（笑）。持ち物に記名がないのも日常茶飯事（笑）になっちゃうこともあるので、でもその様子がちょっと変わってきたっていう、様子が変わってきた点を見るならば、やっぱり洗濯物が急に、今まで丁寧にやっていたのが、なんかこう、忘…湿っぼいものが、洗濯されてても湿っぼいものがあつたりとか、そんなことがあつてくると、忘れ物とかって今日ちょっと、忘れてますってだんだんつながっていったり、こうきっちり、されていた方が、っていうのは、そういう場合もありますし、欠席しがちいうのもすごい気になりますよね。欠席しがちになってきたり（a 園 A 先生）

**2-5. 子どもに聞く** 変化を含むこれら気づきやサインを確かなものとして、その後の対応に活かしていくために、子どもに聞いて確かめるという保育の実際が語られた。

子どもに聞く (1) 3歳くらいになってきたらね、子どもも喋りますからね、ある程度。もう聞きますわ。「昨日なんかあったん」ってね（a 園 B 先生）

子どもに聞く (2) 子どもが言いますからね、「誰々くんが」って（笑）。どこどこ行ったとか、お母さんのこと叩いたとか、そういう情報って、子どもから出てくるんですよ（再掲）（g 園 I 先生）

子どもに聞く (3) 子どもの方からときどき、「朝ご飯食べてないねん」とか、「怒られて叩かれた」とか、言うので（k 園 M 先生）

### 3. 貧困家庭と一般家庭の相違

ここで示されたような気づきに基づいてなされる貧困家庭に対する対応と、一般家庭に対してなされる保育との異同について尋ねた。その結果、対象家庭に対する個別支援として、「洗濯物を減らす」、「迎えに行く」、「足りない経験を補う」、「具体的にアドバイスす

る]、「登園時に話す」、「毎日が大切というメッセージを伝える」などの実践が語られた。これら具体的な支援と比較したときに「夜間保育所を開設する」は規模も大きく、質の異なる支援のようにも感じられるが、開設の恩恵を受けた親の言葉を含む保育者の語りから、こうした支援も対象家庭に対する個別支援の一部であることがうかがわれた。

### 3-1. 個別支援

(1) 洗濯物を減らす 衣服の調整ってことでもないんですけど、(略) 小さいお子さんでしたら、多いとき、何枚にもなってしまうこともあるんですね。3枚4枚って。でもそういうご家庭、経済的に困難のあるご家庭、これ何枚も持って帰ったらお母さん洗濯も大変になって、ちょっとこれぐらいは様子見て、「もう少しこれ着とこうか」って (a 園 A 先生)

(2) 迎えに行く M 先生が当該園児の通う保育所に勤務していた所長時代には、朝、家まで迎えに行き、布団から引っぱり出したケースもしばしばであったと語る。

学校行くまでに、何とかリズムつけさせないと、恐らく学校へも行けなくなる (k 園 M 先生)

(3) 足りない経験を補う ひとり親のところ、なかなか親が、自然の中でいっぱい遊び経験がないとか、なかなかお母さん、お散歩に連れて行く機会がないとかなったら、その辺の経験不足はやっぱりここ (保育所) で、積ませてあげたいなというように配慮は、していきますよね (b 園 C 先生)

(4) 具体的にアドバイスする (普段は母親が自ら子育てを考えていけるように支援しているが) こういうその追い詰められている方に対しては、できるだけその、具体的に、この時はこう言ったらとか、このときはこうしたらとか、というようなことは心がけて、やってる感じですかね (d 園 E 先生)

(5) 登園時に話す あざがあって、帰りにお母さん気づいてなくて、「それは園でやったのか」って言うお母さんもおられるので、やっぱ朝に言っとかないと。

小さい子は特にですね。数回あったんです。お母さん行ってから、園で気づいて「こんなん」って電話すると (略)、稀に、「え、そんなん知らんよ、園でしたん違うん」(f 園 H 先生, G 先生)

(6) 毎日が大切というメッセージを伝える (行事を行い、褒める機会を設けて) もちろん褒めてあげること大事、何かできること大事、それは自信につなが

ていきます。それもつくってあげるのも大事だけど、そこに重きをおくべきじゃない。そうじゃなくって、もうそのもの、この子の毎日を大事にして、お母さんに伝えていく (g 園 I 先生)

(7) 夜間保育所を開設する その普通の保育園やっただらいたい 6 時 7 時にくらいには迎えに行かないかんけど、仕事の関係でそげん早くは迎えに行き切らん。ま場所が遠かったりとか、仕事で残業せなかつたりとか。でもそれやんやん言われるわけですよ、昼間の(筆者注：通常の) 保育園行ったら。で追い詰められて、子どもを朝送って、仕事して、時間に追われながら子どもを迎えに行って、で子どもを車に乗せて家帰ったら今度夕食支度して、お風呂入れてって。そんな中である保護者が言ったばってん「全然子どもと会話する時間がなかつたい」って。「やっぱ自分自身もイライラしとつたし」って。で年度変わってうち夜間保育園はあること知ってうち預けに来たら、そげん慌ててする必要なかじゃないですか。保育園の方でやっぱ夕食まで提供してくれとるけん、じゃこっから自宅に帰る車の中で、やっぱ自分の気持ちにもゆとりが持てたとかなくて。「自分からやっぱ子どもと、子どもに話すような、あのそういうことができるようになった」ちゅうて、えらいなんか、喜んであつたって言うかですね (o 園 S 先生)

一方、「貧困家庭と一般家庭に対する保育の異同を教えてください」の質問に対し、「そんなに変わらない」、「特に分けていない」、「まったく一緒」、「どの子どもも特別扱いする」、「目の前の困りをフォローする」など、貧困家庭と一般家庭に対する保育の異同はないといった語りも聞かれた。

このうち「どの子どもも特別扱いする」と語った E 先生は、先にこの質問について「具体的にアドバイスする」と語った先生と同一の人物でもある。E 先生に見られるように、理念に基づきブレがないような保育を心がけながら、ただし目の前の必要には応じていくといった、対応の実際がうかがわれた。

(1) そんなに変わらない そんなに変わらない じゃないですかね。あの、経済的に貧しいイコール貧困、じゃ今はなくなってきてますね。その経済的に豊かでも、子どもに対しては、(子ども) から見てみると貧困であることがあるし、困難でも一生懸命子どものことされてる方たくさんいらっしゃるの。昔は、一生懸命だったんでしょね、経済的に、困難であれ裕福であれ。今はどっちでも、自分優先の親が増えてると

思うんです (f 園 G 先生)

(2) 特に分けていない 特には分けてないって、思うんですよ。今まで私が保育してきて。だからより手厚い…こっちの子にはしなくていいようなフォローをしてると思うんですけど。やっぱりそれを、大変だねって言いながらなんかしてたねって感じで (笑) (k 園 M 先生)

(3) まったく一緒 保育所ではね、たとえばすごく、年収 1,000 万のある家庭のお子さんと、年収 200 万のお子さんと、対応全然違うんかって言ったらそんなの全然関係ないですからね。まったく一緒なんです (j 園 L 先生)

(4) どの子どもも特別扱いをする 例えば貧困の子がいたり、虐待の子がいたりしたら、もちろん必要な特別扱いはするけれども、どの子にも特別扱いはするって、いうことは大事ななって (d 園 E 先生)

(5) 目の前の困りをフォローする その子の、が、貧困で、って理由で何ができるっていうよりも、目の前の子どもが、こんなことで困ってるって、いうフォローをしてるっていう感じですかね、保育士って。ご飯を十分食べさせてもらってない子には、いっぱい食べさせるとか、お風呂に入ってなければ、洗濯されてなければ洗濯してあげるみたいな。だから経済的に困っているかどうかであんまり、関係ないですよ (e 園 F 先生)

#### 4. 保育所が行う貧困支援の可能性と限界

最後に、理念と保育を行き来しながら貧困家庭に対応する支援の実際について尋ねた。「保育所にできる困難家庭支援の可能性と限界 (難しさ)、また可能性を広げるための条件 (たとえば補助金、人員増加、ソーシャルワーカー等の配置など) について教えてください」と教示した。

**4-1. 可能性** 最初に可能性については、「いっぱいある」、「園に通うことで解決される」の他、保育所は「卒園後にも関与できる」といった点が語られた。

(1) いっぱいある はい、いっぱいあると思います (n 園 P 先生)

(2) 園に通うことで解決される そういう貧困の中で出るんは、だから生活リズム。生活リズムが崩れたおかげで、朝から覇気がなく元気がない、友だちと遊べないっていうのは、やっぱり生活の結果 (略)、そういう点では「できるだけ朝来てください」って、必死で言って、親も必死なんやけど、これはものすごく

(園に通うことで) 解決される。解決されますね (m 園 O 先生)

(3) 卒園後にも関与できる 小学校との連携も取ってるので、その後の非行、中学になって非行に走ってしまってるってケースもあって、そうすると、家庭環境のことどうだったとか、この家どうなってるってか、割と保育園って、情報持ってるんですよね (g 園 I 先生)

**4-2. 限界** 次に限界については、そもそも貧困が「一つのことを解決したら済む問題ではない」性質を帯びており、その点に本来的な難しさがあることが示唆された。保育士は、「できるサポートには限りがある」、「措置されていなければ手が出せない」ことを認識しつつ、補助金や支援センターを活用しながら、できる支援を模索していた。また異動のある公立保育所の元所長は、「子どものその後が分からない」ことを限界として挙げて、私立保育所が有する強み (その地域で何代にも渡って保育を継続できる) について語った。

(1) 一つのことを解決したら済む問題ではない (家庭の育児力の弱さ、AB 階層<sup>3)</sup> が 6~7 割にも及び、保育料を支払っていない家庭の方が多い状況、最も多いベトナム籍の子どもが全園児の 2 割を占める外国籍家庭の高い比率、親と子どもの障がい。問題は相互に重なって) 一つのことを解決したら済む問題ではない (h 園 J 先生)

(2) できるサポートには限りがある やっぱり、保育園ができるサポートって、限りがあるんですよね。そういう意味では、居場所づくりとか、保育園でできない部分のサポートを、行政の補助金の下りてる事業なので (そちらの補助金で支援している) (g 園 I 先生)

(3) 措置されていなければ手が出せない (子どもが施設から家庭に統合されたケースで) まず保育園が何できるんかと。(略) 母親は下のいちばんのお子さん (0 歳児) に母乳が出ないんですよ。(略) 保育所には措置されてませんが、(上のきょうだいに付いて下の 0 歳児も) 毎日必ず一緒に来ますのでね、(略) 体重を計ったりだとか、健康面でのアドバイスをしたりだとか。(略) たとえば保育所が行政的にしてやれる部分としてやれない部分がありますよね。措置されてないお子さんだったのでね。支援センターを併設しましたので、支援センターを利用しているというかたちでその中で支援していったんです (j 園 L 先生)

(4) 子どものその後が分からない (母親が薬物中毒

のため、祖母の家で暮らしていた子どもが) 4 歳くらいで保健師さんラインで引かかって、「こんな子がいる」って。「とりあえず保育所に入れましょう」って。ほんと野性児でした。(卒園して小学校に行つて) すぐ迷子になったり、夜中コンビニで補導されたり。一年生が。もう、( ) 年生になってるかな。(略) やっぱり保育所の限界が、後がわからないじゃないですか。あの、どうなってるんかなと。だから自分たちのやることが、よかったのかどうか、結果がわからない。これから育ちが、見えてこない (k 園 M 先生)

**4.3. 可能性を広げる条件** 最後に支援の可能性を広げる条件として、「相談部屋の設置」、「保育士の増加」、「専門職員の配置」などが提案された。この他、実績を踏まえた「子どもの送迎」を代行する民間機関との連携が、貧困家庭の助けになっているといった実感も語られた。これ以外にも、すでに述べた m 園の子育て支援 (小学 3 年生までを 22 時まで預かる) や o 園の夜間保育などは、自治体からの補助がない中で実施されている。効果の大きさから、補助について今後ますます検討が望まれる事業であると考えられる。

(1) 相談部屋の設置 たいていの保育所は部屋もない。こうやってみんな (職員) がワイワイいて、電話もかかってきて、そういう部屋で相談って、できないですよ (e 園 F 先生)

(2) 保育士の増加 保育の人員配置は (子どもの) 年齢ではなく、地域性があると思うので、うちの地域だったら各学年プラス 1 (i 園 K 先生)

(3) 専門職員の配置 看護師は必要ですね、やはり専門的な知識ありますよね。(略) 所長業務が全然変わって来てるんですよ。すごく忙しいっていうのと、ほとんど入れないと。あのクラスとか、保護者対応とか。もうほんとにいろんな事務的なことに追われてしまってる。ソーシャルケースワーカーとか、そういう専門職の方がいらしてくれたら、もっと、あの、おっきな範囲で動けるんじゃないかと思うんですよ (j 園 L 先生)

(4) 子どもの送迎 保護者自身もやや、障がいの傾向をもってる家庭とかね、あったんですけどね、そういう家庭が通常は普段送り迎えができないと。(略) 送り迎えなかなか行けない、送迎に行けないと。うちでも特別支援のですね、障がい者支援の方が送り迎えていますね。そういったのは私はいいと思いますね (l 園 N 先生)

## 考 察

本研究では、平松 (2016) と塚本 (2016) を参照して、保護者および子どもの貧困に気づく項目としての 10 項目を用意した。この 10 項目について重篤度を尋ねるインタビューを実施したところ、立地条件等が異なるにも関わらず各園共通して重篤と認識されるサインや、反対に、これまでの対応経験の有無から評価の重篤性に対する認識差が示されるサインも見られた。ある園で大変に重篤だと判断され、別のある園ではそうでもないと言われるこれら反応差は、重篤度評価以外に他の質問でもうかがわれた。こうした結果を示すことは、各園に対し一つのサインや事象をめぐって多角的な視点があることを知らせ、まだ見ぬ貧困問題への対応に準備を促す効果もあると考えられた。

たとえば先述したように m 園 O 先生からは、加えるべき他のサインとして子どもの自己表現のなさが挙げられた。一方、f 園 G 先生からは、経済的困難にある家庭の子どもが見せる「ふてぶてしさ」が語られた。正反対とも思えるこうした子どもの姿から、貧困支援では、家庭環境とともに子どもの気質など、個人内外の要因に目を向けていく必要が示唆される。

態度のふてぶてしさ 意外とケロッと入る子がおったり、何かなんて言うんでしょう。逆に、遅くに来ると子どもってできあがったところに入るの嫌がるんですけど、結構こういうざっくりした子は、いつ来てもなんか、「どうも」みたいな (笑)。社長、重役出勤じゃないけど、別に何か? みたいな。(略) 「はよ来なあかんでー」って言っても、「だってお母さん寝てるもん」みたいな。

これら反例は、気づきを確かなものにしようとして保育者が行う「子どもに聞く」という方法でも語られた。それらは貧困状況におかれた子どもが「話さない場合もある」という内容であった。先のふてぶてしさ同様、問題を抱えた子どもの行動とは真逆の内容であることから、これらの様子が逆説的に、サインとしての役目を果たす可能性も考えられた。

(1) 話さない場合もある 1 たぶん、あまり言わないと思いますね、どっちかと言うと。やっぱりお母さん、お母さんなんですよ。だからきっと子どもにとってはいちばん大事な存在なんだと思うんで、あんまり「お母さんが悪い」って言ったりだとか、「お母さんが悪い」っていうのはあんまり言わないように思いますね (e 園 F 先生)

(2) 話さない場合もある 2 ( ) にいたときは、途中話さなくなりました。(親を) かばってるんですよね (g 園 I 先生)

(3) 話さない場合もある 3 ごまかしますね。聞くと、「あ都合悪いかな」っていうようなことが感じられるから、黙ります。ごまかしますし。子どもの性格かなと思います (k 園 M 先生)

(4) 話さない場合もある 4 両方です。(子どもに) 扱います。で喋らない子は絶対喋りませんね。(略)で、「ご飯食べた？」って言ったら、「食べた」って言うんですよ。でももう遠足連れて行ったときも、もうフラフラになってるんですよ。で「食べた？」って、「今日お家で朝ご飯食べてきた？」って言うので「食べたよ」って言うんですよ。(略)それからま、年齢にも扱いますね。大きい子ほど隠す。ある意味わかってくるんですよ。父親とか母親が、周りとは違う。自分たちに対して。お友だちはそんなん違う (j 園 L 先生)

浅井 (2017) は、子どもの貧困に気づくためのポイントとして 10 項目を挙げている。(1) 子どもの表情が暗く、喜怒哀楽の表現が乏しい、(2) 食事の際に、からだに見合わない量を食べ、食べ方もガツガツと食べることがある、(3) 子どもの年齢の平均的な子と比べると、低体重・低身長傾向が見られる、(4) 衣服が汚れたままになっていたり、場合によっては同じ服を着たまま登園したりする場合もある、(5) ベタベタと甘えてくる状況も保護者との関係で受け入れられていないことを推測できる、(6) 頻繁な欠席や遅刻、居眠り、様々な問題行動を起こす傾向がある、(7) 子ども自身の自己肯定感があまり高くない傾向にある、(8) 必要な医療的ケアを受けていないことも多く、病気がちな傾向にある、(9) 保護者が自らの暮らし向きや子どもの話題、子どもとの関係を、あまり話そうとしない、(10) 保育料の滞納や納入金の遅延などがしばしばみられる、である。本研究でも、用意された各 5 項目と新たに加えられた 13 項目によって、浅井 (2017) の指摘とほぼ重なる貧困のサインを抽出できたものと考えられる。このうち、本研究のここまでで取り上げられなかった保育者の語りとして、浅井 (2017) がリストアップした (3)、(7)、(8) に関する語りを見ていく。

**低体重・低身長傾向 (浅井リスト 3)・医療的ケアのなさ (浅井リスト 8)** (低体重よりも) 僕肥満の方が (貧困問題を臭わせる) 可能性ある気がしますね。

妙な तरी方ですよ。太ってるっちゃうかなんか、水膨れみたいな。何を食べたらそうなるか聞いてみたいんですけどね。砂糖類と何かだけみたいですね。(略) (だから) 虫菌はい。多いです多いです (n 園 P 先生)

食事の質と量の問題については、すでに m 園 O 先生の語り (1 歳になるにもかかわらず 7kg しか体重がない) を報告した。P 先生の語りは、貧困がゆえに太るという、その反例と言うべき実態であった。肥満の原因は糖類の摂取の多さであり、貧困家庭では医療の受診を避ける傾向から、虫菌との関連についても指摘されている。

**自己肯定感の低さ (浅井リスト 7)** 「自分なんかおらんくていいや」とかいきなり言い出したりとかです。(略) もっと言うと自分のことを軽く見えますもんね。「あなたは尊いんだよ」って、うち仏教なんで、割とそういうことをずーっと伝えてるんですよ (n 園 P 先生)

住職でもある P 先生は、宗教的立場から、こうした子どもの心性に対する気がかりを述べ、実際の対応についても語っている。

**本研究の課題** ここまで見てきたように、一つの事象をめぐる提出された異なる意見は、貧困問題の重層性を示し、幅広い観点から子どもや家庭をまなごす必要を示唆している。しかし回答の多様性はそれ以前に、子どもの貧困とは何かという、定義に起因している。もちろん実証的なアプローチを採らない本調査において、「等価可処分世帯所得の中央値の半分以下の収入で暮らす家庭について教えてください」といったような問いは不適当であり、ゆえに避けられたわけであるが、しかしながら小西 (2016) に基づき、「子どもの貧困とは、子どもが経済的困窮の状態におかれ、発達の諸段階におけるさまざまな機会が奪われた結果、人生全体に影響をもたらすほどの深刻な不利を負ってしまうこと」といった枠組みを提示して、この問題を検討することもできた。本研究では特に、貧困、虐待、それからネグレクトの捉えに曖昧さがあり、無論これらは相互に絡み合った問題ではあるにせよ、問題の検討の範囲の設定を、以下に示すように回答者に委ねてしまった可能性がある。

**(1) 虐待とネグレクト 1** ま大きい音や人の出入りに敏感っていうのは、特別な感じ…もうこころ辺になると虐待を疑わないといけなくなってるんで、あざとか、大きな音とかに敏感…うん、虐待っていうかもう身体的な虐待だったり…になってきますよね。でも

こっち (異常な食欲など) になるとネグレクトになってきますよね (o 園 R 先生)

(2) 虐待とネグレクト 2 この忘れ物が多いが続いていくと、これは貧困ですよね。貧困やし、なんかイライラ、お母さんがイライラしていく感じですよ、なんか、手を出していく、忘れもんが多い、「また言われた、お前 (子ども) のせいじゃ」みたいな。

こっからいくと、ネグレクトから始まって虐待っていう風に行くかなって感じかな。

それは貧困じゃないですよ、登園時間がバラバラっていうのも。ネグレクトですよ、ネグレクト (f 園 G 先生, H 先生)

(3) 虐待とネグレクト 3 あ、こんな子がいましたよ。先生が何かで手を上げる。そうするとハッとす。もう叩かれるっていう。「誰も叩かないよ」って言うんですけど、必ずこうしてハッと避ける子がいましたですよ。虐待の子…虐待の子は貧困の子かもしれないですよ (c 園 D 先生)

さらに、複雑に絡み合った問題の切り分けという点からは、保護者と子どもそれぞれのサインとして用意された項目の相互関係についても考える必要があるだろう。保護者と子どものサインは相互に影響し合っており、保護者の項目として挙げられたサインが、子どものサインとして活用できる可能性も以下のように語られている。

「衣類などの洗濯がなされていない」は子どものサインでもある あの、お風呂入ってないなって感じる子どもの、臭いだったり、昨日とおんなじ服のまま、

登園してたりすると、この子昨日家帰ってからどうやったんかなってというのはやっぱり気になります。「洗濯されてない」って保護者の欄であるんですけど、子ども自身の服装で、はい、思うことはあります (a 園 A 先生)

本研究では、平松 (2016) と塚本 (2016) を参照して用意された 5 項目を中心に、加えるべき他のサインも加えて、保育所による子どもの貧困対策の実際を整理した。当初は園にとって有用なチェックリストの考案が研究目的とされたが、大きくは次の 2 点からこの作業を見合わせた。(1) ここまで見てきたように問題は相互に関係しており、一つの事象をめぐって両極に付置されるような評価が存在した。このため有無をチェックする仕方により、その項目の多さをもって問題の重篤性を把握する方法が適切かどうかは再考の余地がある。(2) チェックリストは本来、チェックされた項目の多さをもって、当該問題に対する対応の必要性や、反対に充足度を確認させるものである。本研究では、一定程度までこの問題を検討する妥当なデータを収集したが、それでも収集地域の偏りなど、理論的飽和に至るサンプリングが必ずしも達成されたわけではない。以上の理由から本稿では、この段階でチェックリストを完成させることを避け、代わりに問題の相互関連を示す概念図を提案して、貧困問題をめぐる保育の可能性と限界に関する議論を継続することにした (Figure 3)。この関係図では、子どもの internalizing/externalizing それぞれの問題傾向にかかる家庭の養育として、neglect 系と abuse 系の、2 つの不適切な行動

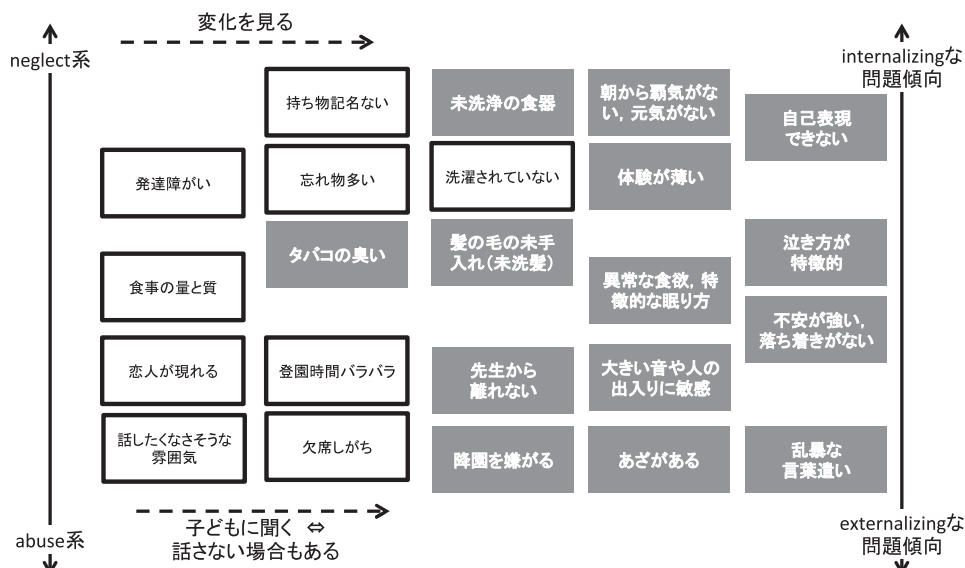


Figure 3 貧困のサインの相互関係図 (囲みは保護者のサイン、白抜きは子どものサイン)

を想定している。加えて保護者と家庭の問題に対する気づきに有効と語られた、変化への着目と子どもに聞く方法とを、具体的な行為として付加している。

この関係図に示されたように、保護者のおかれた状況や障がい、子どもの気質などを考慮して、サインを複眼的に見ていくことに加え、現象の頻度などにも着目していくことが重要と言えよう。その上で各園・各地域において貧困対策に必要と考えられた「相談部屋の設置」、「保育士の増加」、「専門職員の配置」、「子どもの送迎」といった提案について、FIMあるいはFSMに基づく実証的なエビデンスを集め、検討していく作業が求められる。以上、本研究によって、保育所で貧困問題を把握・共有し、その支援を議論していくための、基礎資料が得られたものと考えられる。

#### 文 献

- 阿部 彩 (2006). 相対的剥奪の実態と分析—日本のマイクロデータを用いた実証研究 社会政策学会 (編). 社会政策における福祉と就労 (pp.251-275) 法律文化社
- 阿部 彩 (2007). 日本における社会的排除の実態とその要因 季刊・社会保障研究, 43, 27-40.
- 阿部 彩 (2008). 子どもの貧困—日本の不公平を考える 岩波新書
- 阿部 彩 (2012). 「豊かさ」と「貧しさ」: 相対的貧困と子ども 発達心理学研究, 23, 362-374.
- 秋田喜代美・小西佑馬・菅原ますみ (編著) (2016). 貧困と保育 社会と福祉につなぎ, 希望をつむぐ かもがわ出版
- 浅井春夫 (2017). 保育と子どもの貧困 発達, 151, 13-18.
- Bierman, K. L., Welsh, J. A., Heinrichs, B. S., Nix, R. L., & Mathis, E. T. (2015). Helping head start parents promote their children's kindergarten adjustment: The research-based developmentally informed parent program. *Child Development*, 86, 1877-1891.
- Brooks-Gunn, J., & Duncan, G. J. (1997). The effects of poverty on children. *The future children*, 7, 55-71.
- Duncan, G. J. & Brooks-Gunn, J. (1997). *Consequences of growing up poor*. Russell Sage Foundation.
- Gassman-Pines, A., Gibson-Davis, C. M., & Ananat, E. O. (2015). How economic downturns affect children's development: An interdisciplinary perspective on pathways of influence. *Child Development Perspectives*, 9, 233-238.
- 樋口美雄・宮内 環・McKenzie, C (編) (2012). 親子関係と家計行動のダイナミズム—財政危機下の教育・健康・就業 (パネルデータによる政策評価分析) 慶應義塾大学出版会
- 平松知子 (2016). 人生最初の6年間で育めるもの 保育所保育から見る貧困と福祉 秋田喜代美・小西佑馬・菅原ますみ (編著) 貧困と保育 社会と福祉につなぎ, 希望をつむぐ (pp.54-74) かもがわ出版
- Heckman, J. J., & Masterov, D. V. (2007). The productivity argument for investing in young children. NBER working paper No.13016.
- Huston, A. C., & Bentley, A. C. (2010). Human development in social context. *Annual review of psychology*, 61, 411-437.
- 小西佑馬 (2016). 乳幼児期の貧困と保育 保育所の可能性を考える 秋田喜代美・小西佑馬・菅原ますみ (編著) 貧困と保育 社会と福祉につなぎ, 希望をつむぐ (pp.25-52) かもがわ出版
- Magnuson, K. A., & Duncan, G. J. (2002). Parents in poverty. Bornstein, M. H (Ed.), *Handbook of parenting* (2nd ed., pp.95-120). New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates, Inc.
- Meins, E., Centifanti, L. C., Fernyhough, C., & Fishburn, S. (2013). Maternal mind-mindedness and children's behavioral difficulties: mitigating the impact of low socioeconomic status. *Journal of abnormal child psychology*, 41, 543-553.
- 耳塚寛明 (2013). 学力格差と教育投資家族. 耳塚寛明 (編) お茶の水女子大学グローバル COE プログラム格差センシティブな人間発達科学の創生 第3巻 学力格差に挑む (pp.1-11) 金子書房
- OECD. (2015). *Fostering social and emotional skills through families, school and communities*.
- Rijlaarsdam, J., Stevens, G., Ende, J., Hofman, A., Jaddoe, V., Mackenbach, J., Verhulst, F., & Tiemeier, H. (2013). Economic disadvantage and your children's emotional and behavioral problems: mechanisms of risk. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 41, 125-137.
- 敷島千鶴・直井道生・山下 絢・赤林英夫 (2012). JHPS お子様に関する特別調査—学力テストの信頼性と妥当性の検討 樋口美雄・宮内 環・McKenzie, C. R. (編) 教育・健康と貧困のダイナミズム 所得格差に与える税社会保障制度の効果 慶応大学出版会
- 鎮目真人 (2011). 社会保障・社会福祉政策部門 (2011年度学会回顧と展望) *社会福祉学*, 53, 126-139.
- 菅原ますみ (2012). 子ども期のQOLと貧困・格差問題に関する発達研究の動向 菅原ますみ (編著) お茶の水女子大学グローバル COE プログラム格差センシティブな人間発達科学の創生 第1巻 子ども期の養育環境とQOL (pp.145-165) 金子書房
- 菅原ますみ (2014). 貧困と子どものQOL *児童心理学の進歩*, 53, 221-241.
- 友田明美 (2017). 子どもの脳を傷つける親たち NHK出版
- 塚本秀一 (2016). もう一つのおうち 養護を中心とした福祉としての保育 秋田喜代美・小西佑馬・菅原ますみ (編著) 貧困と保育 社会と福祉につなぎ, 希望をつむぐ (pp.76-93) かもがわ出版
- 梅崎高行・高 向山・山際勇一郎・青柳 肇 (2017). 保育所で用いられる貧困のサインに関する探索的研究 日本心理学会第81回大会発表論文集, 878.
- Votruba-Drzal, E., Miller, P., & Coley, R. L. (2016). Poverty, urbanicity, and children's development of early academic skills. *Child Development Perspectives*, 10, 3-9.

**注**

- 1) 保育料は家庭の経済状況に基づいて決定される。A は生活保護世帯, B は住民税非課税世帯を指し, この AB 階層に当たる家庭は保育料が不要になる。

**謝辞**

本研究は JSPS 科研費 15 K 01783 の助成を受けたものです。調査にご協力いただいた各園の先生方, ならびにリクルートにご協力いただいた佐柳信男先生 (山梨英和大学), 野崎秀正先生 (宮崎公立大学), 細川美幸先生 (九州大谷短期大学) に深く感謝申し上げます。